

行政調査報告書「総務企画常任委員会」

令和7年7月7日～9日

■長野県長野市 『庁舎建設（庁舎と芸術館の複合施設）について』

第一庁舎と市芸術館は、平成28年に開館した複合施設で、行政機能と文化芸術機能が一体的に整備されており、効率的な施設活用とともに文化芸術や市民活動にふれる機会を創出する効果がある。全体が免震化され、災害への対応がされていた。複合化のメリットを生かした例として、従前は屋外に並ぶ構造となっていた会館の開場待ちの列は、合築により廊下を共用とすることで、面積を増やすことなく課題を解決されている。

本庁舎も市民会館と隣接し、かつ老朽化しており、現在計画中の庁舎整備に併せて、市民会館の在り方も課題のひとつになると予想されるため、今回の視察は大変参考になった。



■東京都東久留米市 『D X推進の取組について』



「お手間を取らせない市役所」を目指し、行財政改革部門と情報システム部門を統合し、戦略的な経営を図るためのD Xを全庁横断的に推進している。事業者からの請求書や契約書を電子でやりとりができる電子請求システムを導入したり、Liqlid のシステム使用で、市民の意見を AI により集約、分析、可視化し、新しい市民参加の手段として活用している。市民、職員にも機能的で、効率的な意見集約や分析ができ、よりよい行政運営の参考になると感じた。庁内の人材育成を軸に据えた職員の「意識改革」に重点を置く姿勢は、本市においても大変参考となった。

■東京都国分寺市 『新庁舎の建設について』

新庁舎は市民サービス、防災力、環境性能のバランスを意識した非常に完成度の高い庁舎であった。

市民参加による施設整備のプロセス設計、ワンストップ窓口による市民の利便性向上、手順をスムーズに行える動線設計、市議会議事堂フロアの木漏れ日テラスの設置など、将来の公共施設整備のモデルとなる事例であった。D X化に向けた取組も行っており、庁舎建設に併せ「職員の働き方も見直す」という部分は、本市も今後の庁舎検討に向け積極的に議論をすべきと感じた。

